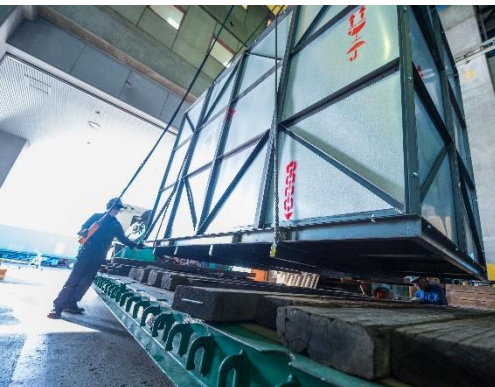


2019年3月期第2四半期 決算説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ
2018年12月6日

東証1部
【証券コード：9366】



目次

1. 当社の概要 P2

2. 2019年3月期第2四半期 決算報告 P5

3. 2019年3月期 決算見通し P10

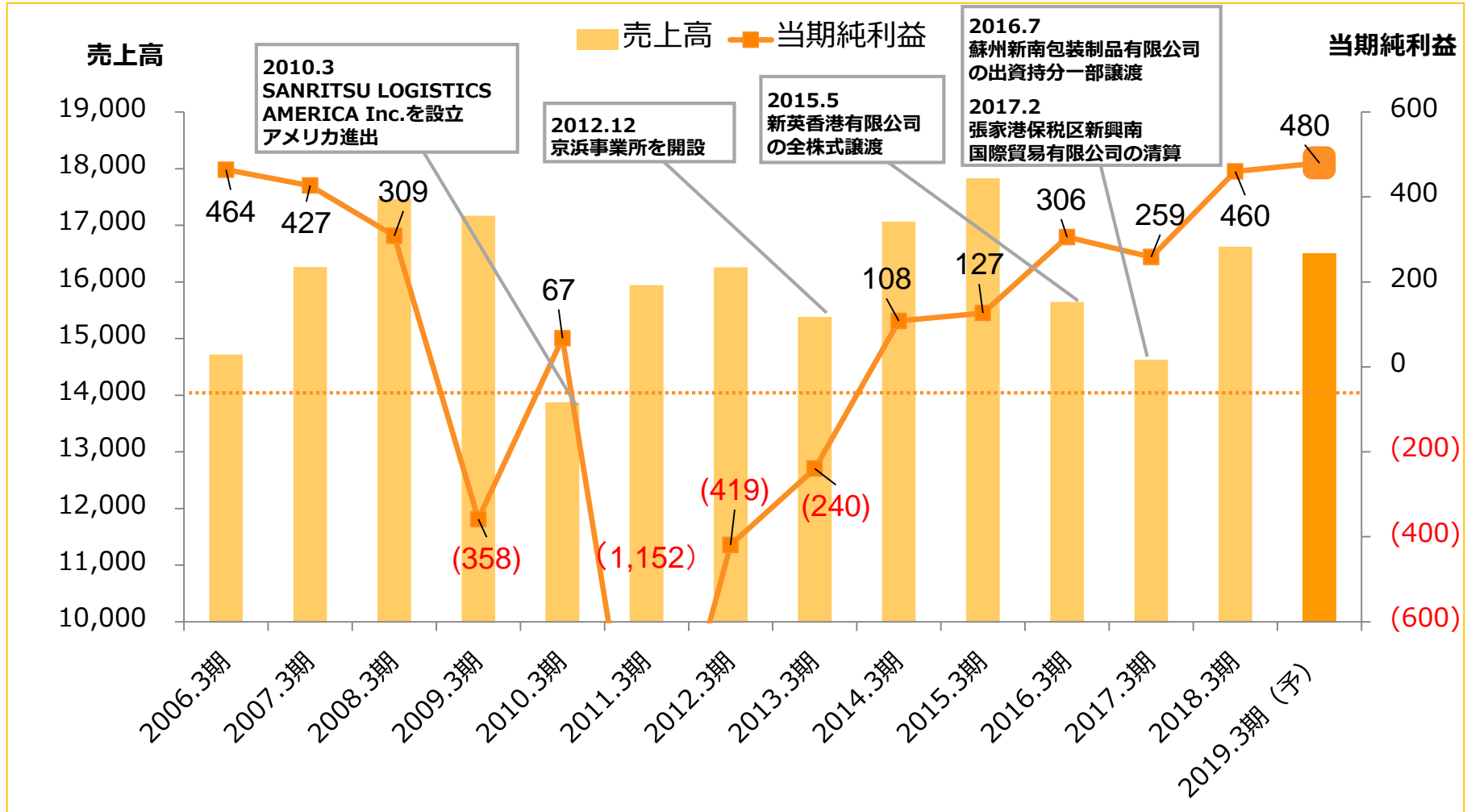
4. 中期経営計画の進捗状況 P16

5. Appendix P25

1. 当社の概要

1-1. 収益推移

(単位：百万円)



中国再編により減少傾向にあった売上高は回復に向かい、利益も堅調推移

1-2. 事業領域と取扱製品群別ターゲット

	庫内オペレーション ※1	保管	梱包	流通加工	通関	配車・輸送
小型精密機器	○	○	◎	○	○	△
大型精密機器	○	○	◎	○	○	△
医療機器	○	◎	○	○	—	○
工作機械	— → △	—	◎	○	○	○
その他	○	○	—	—	△	○

- ◎ . . . 強み、または経験値が高い事業領域
- . . . 取扱実績があるが、他社との差別化までいかない事業領域
- △ . . . 取扱実績があるが、まだ弱く、強化していきたい事業領域

※1：庫内オペレーション…倉庫内入出庫作業やその管理

取扱製品群別の主な特徴

- ◆ **小型精密機器／大型精密機器：**
日系企業を中心に工場構内や近隣倉庫にて、顧客に密着した物流業務を展開
- ◆ **医療機器：**医療機器製造業の免許取得と設備の整った倉庫をベースに、外資系企業を中心に日本における国内物流をサポート
- ◆ **工作機械：**日・中・米各拠点とも大型設備を保有し梱包を実施、自社物流ライセンスで国際物流を展開

2. 2019年3月期第2四半期 決算報告

2-1.2019年3月期第2四半期 決算概要

～全段階で増益達成～

(単位：百万円)

	2018.3期 2Q	2019.3期 2Q	予想	予想比 差異	予想比 差異率	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	7,752	8,517	8,000	+517	+6.5%	+765	+9.9%
売上原価 (売上原価率)	6,340 (81.8%)	6,857 (80.5%)	—	—	—	+516	+8.2%
売上総利益 (売上総利益率)	1,411 (18.2%)	1,660 (19.5%)	—	—	—	+248	+17.6%
販管費 (販管費率)	1,121 (14.5%)	1,185 (13.9%)	—	—	—	+63	+5.6%
営業利益 (営業利益率)	290 (3.7%)	474 (5.6%)	360 (4.5%)	+114	+31.9%	+184	+63.7%
経常利益 (経常利益率)	241 (3.1%)	430 (5.0%)	320 (4.0%)	+110	+34.4%	+188	+78.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	156 (2.0%)	287 (3.4%)	190 (2.4%)	+97	+51.5%	+131	+84.4%
1株当たり 当期純利益(円)	27.97	51.58	34.04	+17.54	+51.5%	+23.61	+84.4%

◆売上高 : 増収

- ・ 前期に獲得した制御システム案件が堅調に推移
- ・ 業界の活況が続く工作機械の取扱いが好調に推移

◆営業利益 : 増益

- ・ 低採算案件からの撤退及び一部内製化により利益率改善
- ・ 販売費及び一般管理費の増加を抑制

2-2.取扱製品群別 決算概要

(単位：百万円)

取扱製品群		2018.3期 2Q	2019.3期 2Q	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	3,086	3,627	42.6%	+541	+17.5%
	大型精密機器	1,396	1,368	16.1%	▲27	▲2.0%
	医療機器	967	890	10.5%	▲76	▲7.9%
	工作機械	1,724	2,092	24.6%	+367	+21.3%
	その他	578	538	6.3%	▲39	▲6.8%
	合計	7,752	8,517	100.0%	+765	+9.9%

◆小型精密機器：増収

- ・前期獲得した制御システム案件や電子部品等が堅調に推移し取扱い増加

◆大型精密機器：減収

- ・半導体制御装置の取扱い増加及び新規案件獲得も、低採算案件の撤退により減収

◆医療機器：減収

- ・メーカーの生産減少の影響により減収

◆工作機械：増収

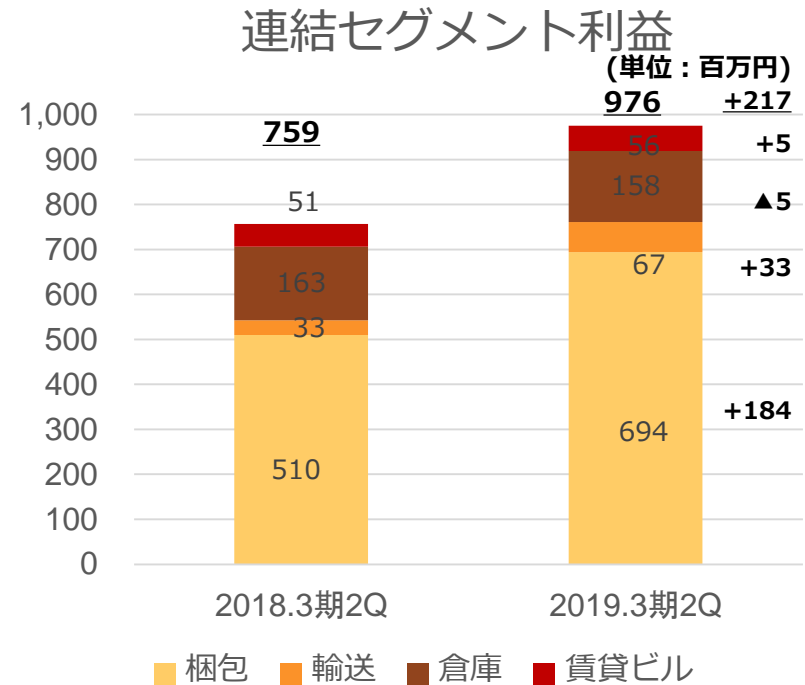
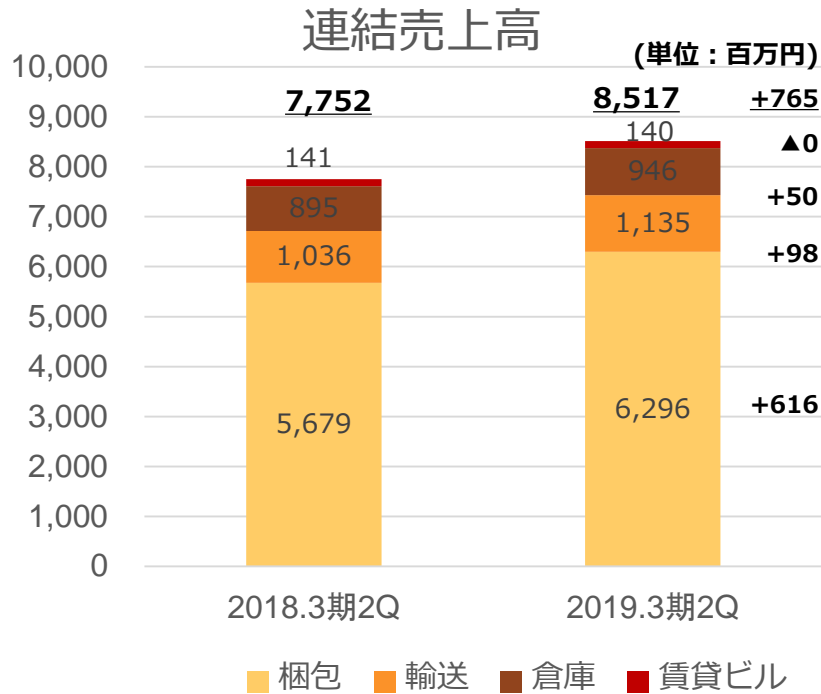
- ・自動車及び航空機向け等の工作機械取扱いが増加

2019.3期2Q 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小型精密機器	—
大型精密機器	○
医療機器	△
工作機械	△
その他	—

売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

2-3.セグメント別 決算概要



◆梱包事業：増収増益

- ・半導体製造装置の取扱い増加及び業界の活況が続く工作機械の取扱いも好調に推移

◆運輸事業：増収増益

- ・制御システム取扱い増加に加え、運輸事業部門の合理化を進め採算改善

◆倉庫事業：増収減益

- ・前期計画遅れだった新規案件が当期に入り堅調に推移
- ・自動ロボット制御ピッキングシステムの導入による先行費用の発生により減益

2-4.地域別売上高 決算概要

(単位：百万円)

	2018.3期 2Q	2019.3期 2Q	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	7,366	8,102	95.1%	+736	+10.0%
中 国	67	60	0.7%	▲7	▲11.3%
米 国	318	354	4.2%	+35	+11.2%
合 計	7,752	8,517	100.0%	+765	+9.9%

◆日本：増収

- ・大幅に増収

◆中国：減収

- ・前期に発生した大型スポット案件が当期発生しなかったことにより減収

◆米国：増収

- ・工作機械の梱包及び調達物流が引続き好調に推移したことにより増収

3. 2019年3月期 決算見通し

3-1.2019年3月期 業績予想

(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期 予想	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	16,623	16,500	▲123	▲0.7%
営業利益 (営業利益率)	817 (4.9%)	900 (5.5%)	+82	+10.2%
経常利益 (経常利益率)	711 (4.3%)	810 (4.9%)	+98	+13.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	459 (2.8%)	480 (2.9%)	+20	+4.5%
ROE (自己資本利益率)	6.3%	6.3%	+0.0pts	—
1株当たり 当期純利益(円)	82.31	85.99	+3.68	+4.5%
1株当たり 配当(円)	24	25	+1	—

◆収益：減収増益の見通し

米中貿易摩擦の影響等による不透明さを反映し、通期予想を据え置き

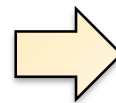
3-2.2019年3月期 取扱製品群別業績予想

(単位：百万円)

取扱製品群		2018.3期	2019.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	小型精密機器	6,573	7,140	43.3%	+566	+8.6%
	大型精密機器	3,028	2,630	15.9%	▲398	▲13.2%
	医療機器	1,970	2,060	12.5%	+89	+4.5%
	工作機械	3,743	3,690	22.4%	▲53	▲1.4%
	その他	1,307	980	5.9%	▲327	▲25.0%
	合計	16,623	16,500	100.0%	▲123	▲0.7%

2018.3期 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小型精密機器	—
大型精密機器	○
医療機器	—
工作機械	△
その他	○

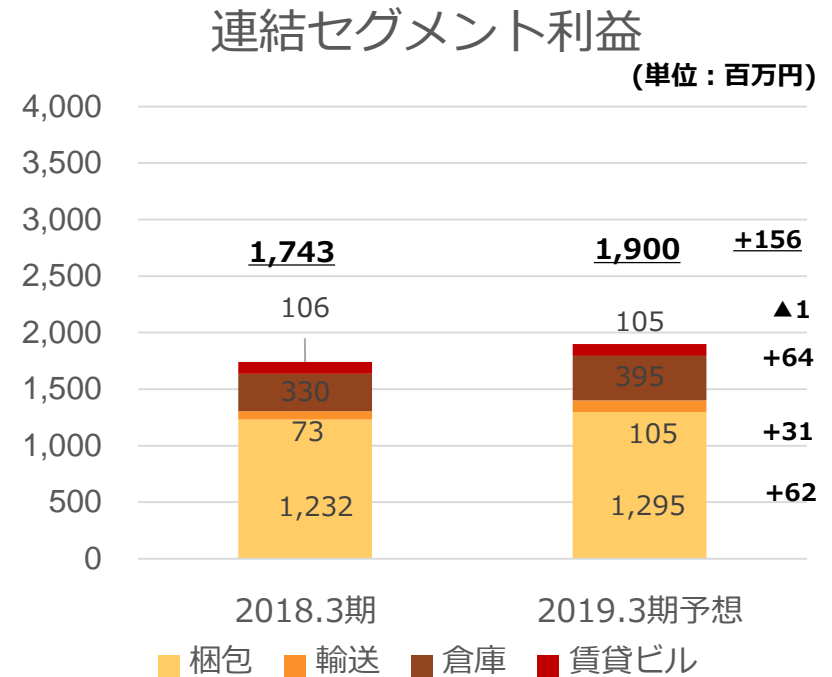
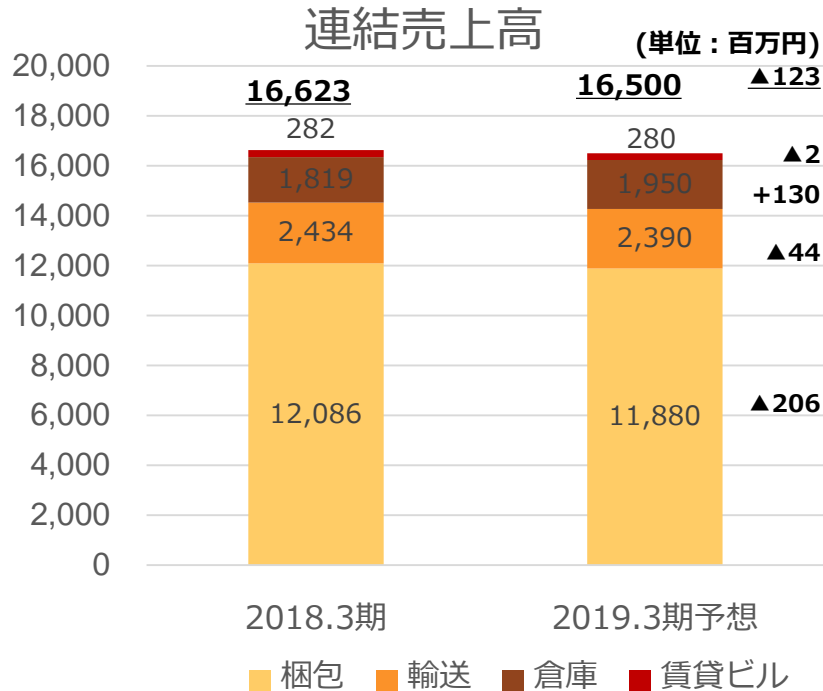


売上総利益率が全社平均より
高い⇒「○」
同水準⇒「—」
低い⇒「△」

2019.3期 売上総利益率水準

取扱製品群	売上総利益率 水準
小型精密機器	—
大型精密機器	○
医療機器	—
工作機械	△
その他	○

3-3.2019年3月期 セグメント別業績予想



◆梱包事業：減収増益

- ・制御システム及び半導体製造装置は堅調に推移するものの、
 工作機械及び無線通信機器の取扱い減少により減収増益の見通し

◆運輸事業：減収増益

- ・制御システムの取扱いが増加するものの、低採算案件の撤退により減収増益の見通し

◆倉庫事業／増収増益

- ・前期増床分の収益改善及び新規案件取り込みにより増収増益の見通し

3-4.2019年3月期 地域別売上高予想

(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	15,763	15,680	95.0%	▲83	▲0.5%
中 国	146	130	0.8%	▲16	▲11.1%
米 国	714	690	4.2%	▲24	▲3.4%
合 計	16,623	16,500	100.0%	▲123	▲0.7%

為替レート 2019.3期 1ドル=107円 1人民元=17円

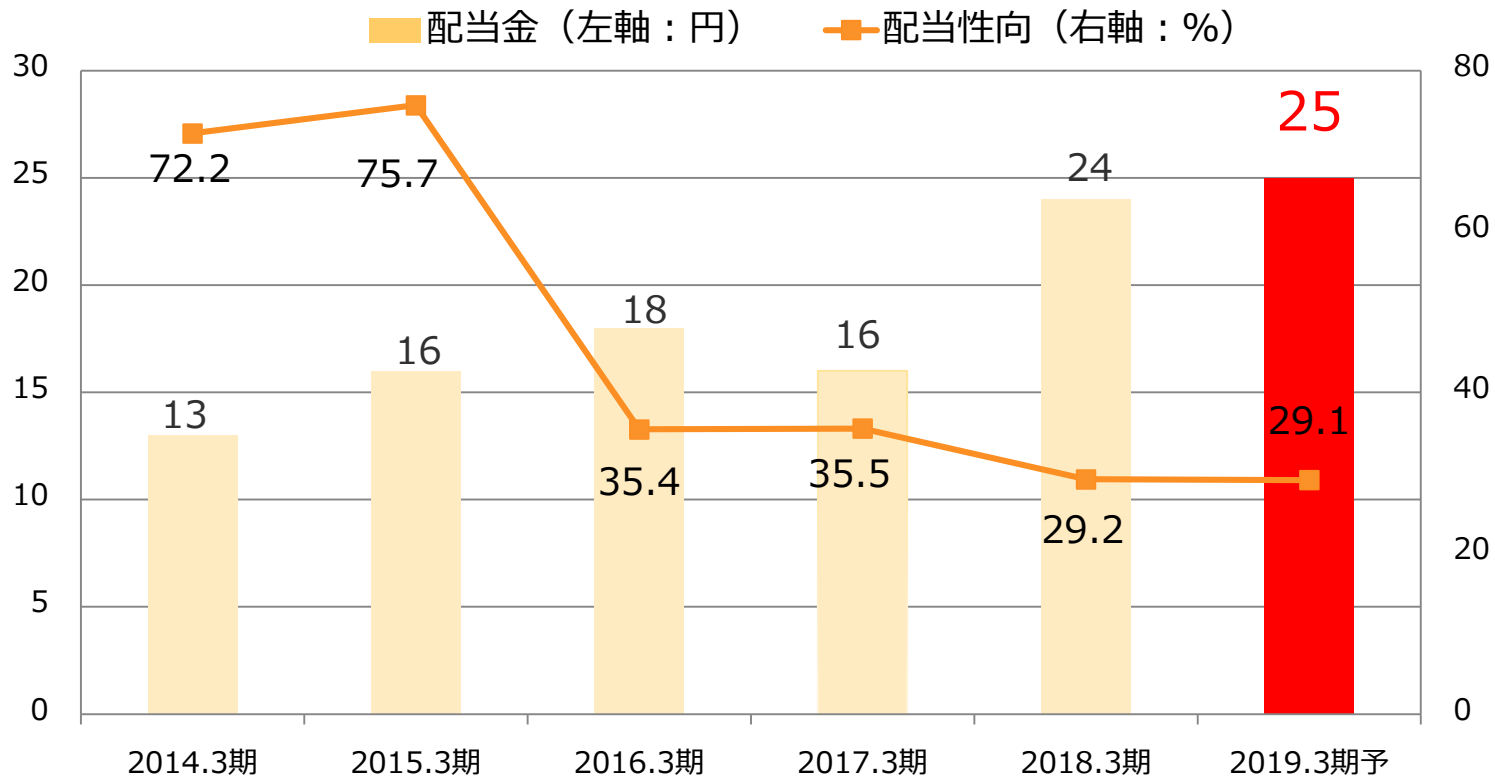
◆中国：減収

- ・ 前期に発生した大型スポット案件が当期発生しなかったことにより減収

◆米国：減収

- ・ 工作機械の梱包及び調達物流に注力するものの生産調整の影響を受け減収の見込み

3-5. 配当について



◆ 連結配当性向は30%程度を基本とし検討

◆ **2019.3期：過去最高の1株当たり25円を予定**

4. 中期経営計画の進捗状況

4-1. 中期経営計画の概要

◆ビジョン(中長期的に目指す姿)

オペレーションから ソリューションへ

◆経営目標

期 間	2020年3月期 最終目標	(参考) 2017.3期	伸び率
2017年4月 ~ 2020年3月	売 上 高 16,500百万円	14,626百万円	+ 12.8%
	営 業 利 益 950百万円	627百万円	+ 51.5%
配当方針	営業利益率 5.8%	4.3%	+ 1.5pts
30%目途	R O E 6.3%	3.7%	+ 2.6pts

4-2. 中期経営計画の概要

【国内物流事業】

1. 精密機械／医療機器

- ・ ノンアセット型新拠点を開設
- ・ 「立地」×「ソリューション営業」×「庫内オペレーションの高度化」で他社と差別化

2. 工作機械

- ・ 現キャパシティで既存顧客の取引深耕により収益を維持

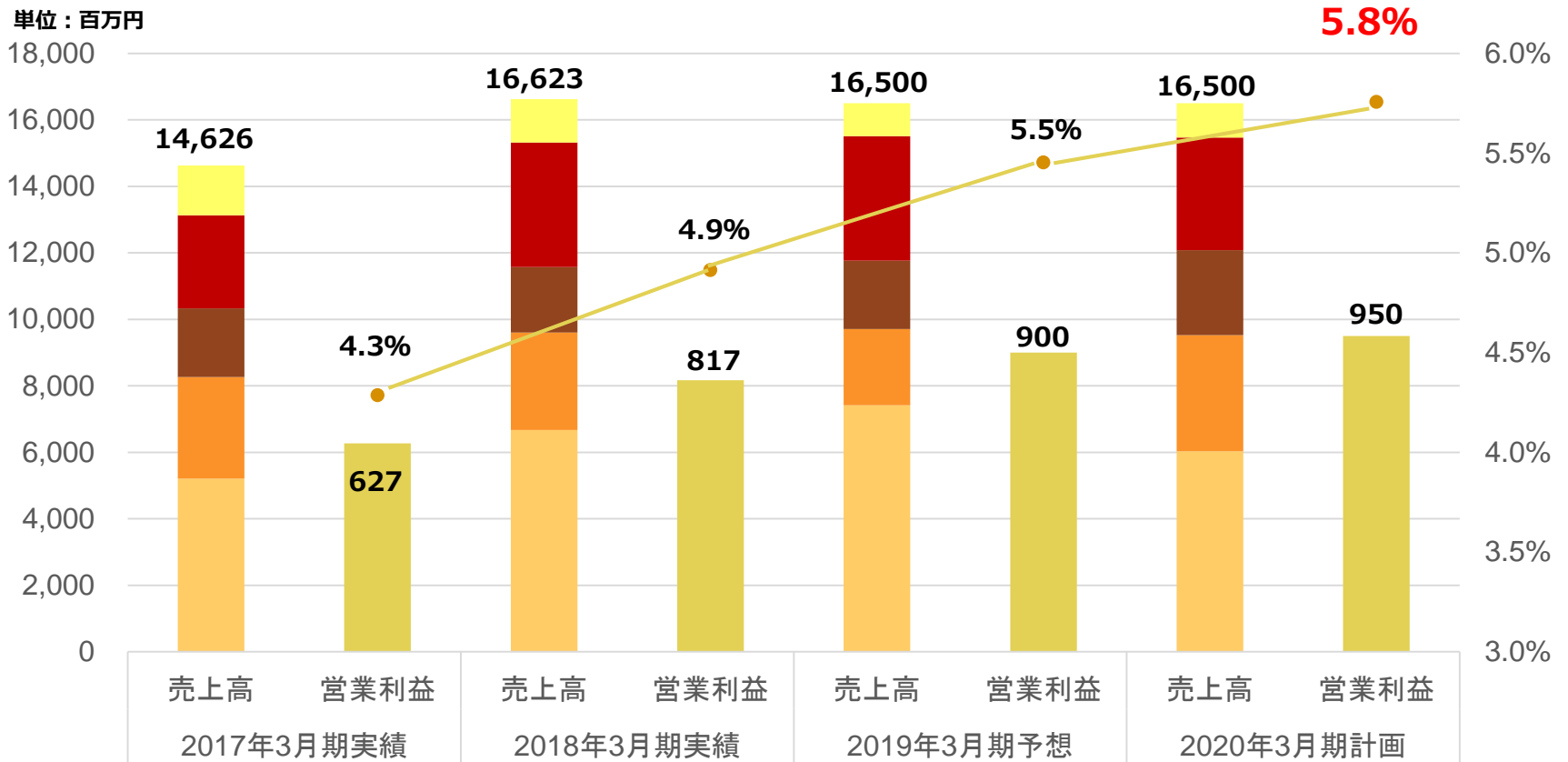
【海外物流事業】

1. 顧客に合わせたカスタムメイドの 国際輸送ネットワーク構築

2. 当社の梱包技術で事業拡大

4-3. 中期経営計画の進捗状況

～ 売上目標は前倒しで実現 / 利益目標実現を目指す ～



■ 小型精密機器
 ■ 大型精密機器
 ■ 医療機器
 ■ 工作機械
 ■ その他
 ● 営業利益率

4-4.中期経営計画 2年目の取り組み

取り組み	内容
<p>ノンアセット型 新拠点開設</p>	<p>◆北関東地区 1,300坪のノンアセット拠点を10月に設置 ※新倉庫としては 計3,400坪/5,000坪</p>
<p>IT投資による 省力化、効率UP の実現</p>	<p>◆自動ロボット制御ピッキングシステム (AutoStore)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客に提供できた価値 <ul style="list-style-type: none"> ①保管効率向上 ②製品毎の消費期限管理自動化による効率的な在庫管理 (次ページ参照) ・当社の効果 <ul style="list-style-type: none"> ①従来プロセスよりPicking効率 約25%改善 ②長期契約 (庫内オペレーション及び倉庫保管) 締結 今後成長が見込める業界において、長期安定顧客を獲得 ・今後の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ①当初見込みより工数増が散見。AutoStoreの前後工程である包装作業、倉庫内運搬作業の自動化等につき顧客PJを組み、取り組み中
<p>労働力不足対応</p>	<p>・ベトナムからの技術研修生の受入れ開始 当期15名予定</p>

4-4. 中期経営計画 2年目の取り組み

自動ロボット制御ピッキングシステム (AutoStore)

・顧客に提供できた価値

②製品毎の消費期限管理自動化による効率的な在庫管理 説明図

AutoStore導入前

AutoStore導入後

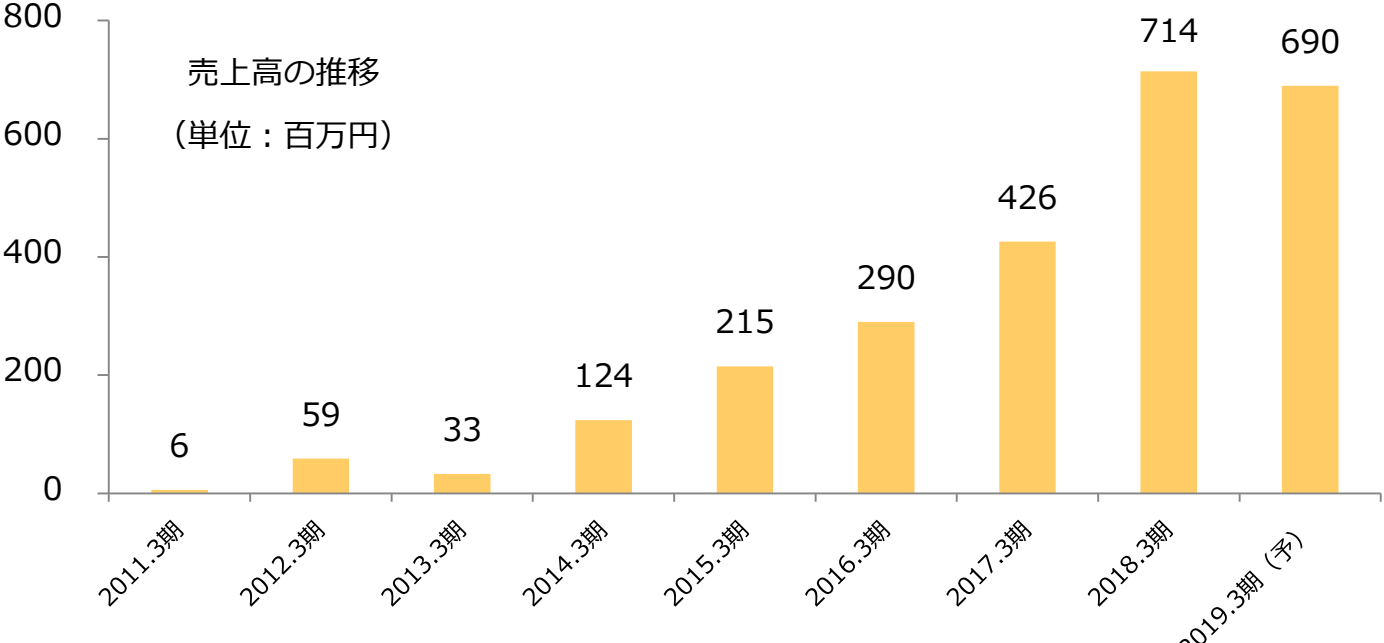


①先入先出の自動管理により長期滞留による保管品の劣化を防止

②顧客特性に合わせた消費期限製品を自動割り当て

⇒ **【未使用で消費期限を迎え廃棄されるリスク・コストの低減】を顧客へ提供**

4-5.新しい取り組み

取り組み	内 容																			
海外事業 展開	<p>◆SANRITSU LOGISTICS AMERICA Inc.社 米国東海岸地区へ新倉庫建設 2019年10月竣工予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SLAの概要 <ul style="list-style-type: none"> 所在地：米国カリフォルニア州（西海岸） 設立年月：2010年3月 主要事業：梱包事業／運輸事業／倉庫事業 																			
	<p>売上高の推移 (単位：百万円)</p>  <table border="1"> <caption>売上高の推移 (単位：百万円)</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>売上高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011.3期</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>2012.3期</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>2013.3期</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>2014.3期</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>2015.3期</td> <td>215</td> </tr> <tr> <td>2016.3期</td> <td>290</td> </tr> <tr> <td>2017.3期</td> <td>426</td> </tr> <tr> <td>2018.3期</td> <td>714</td> </tr> <tr> <td>2019.3期 (予)</td> <td>690</td> </tr> </tbody> </table>	期	売上高	2011.3期	6	2012.3期	59	2013.3期	33	2014.3期	124	2015.3期	215	2016.3期	290	2017.3期	426	2018.3期	714	2019.3期 (予)
期	売上高																			
2011.3期	6																			
2012.3期	59																			
2013.3期	33																			
2014.3期	124																			
2015.3期	215																			
2016.3期	290																			
2017.3期	426																			
2018.3期	714																			
2019.3期 (予)	690																			

4-5.新しい取り組み

取り組み	内 容
<p>海外事業 展開</p>	<p>◆SANRITSU LOGISTICS AMERICA Inc.社 米国東海岸地区へ新倉庫建設 2019年10月竣工予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設の目的 米国西海岸において展開中であり、工作機械を中心とした梱包事業／運輸事業／倉庫事業を東海岸ノースカロライナ州でも提供し、さらなる事業拡大を目指す ・新倉庫の概要 敷地及び延床面積 80,937m²(24,526坪)/4,628.09m² (1,400坪) 建設費用 7,760千米国ドル (880百万円)



※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463



5. Appendix

[参考]2019年3月期第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2018.3期	2019.3期 2Q	前期比 増減	負債 純資産の部	2018.3期	2019.3期 2Q	前期比 増減
流動資産	5,700	5,406	▲294	流動負債	4,489	4,359	▲130
有形固定資産	11,816	11,883	+67	固定負債	7,423	7,090	▲333
無形固定資産	75	24	▲50	負債合計	11,913	11,449	▲463
投資その他の資産	1,961	1,956	▲5	純資産合計	7,640	7,821	+180
固定資産合計	13,853	13,864	+11				
資産合計	19,554	19,271	▲283	負債・純資産合計	19,554	19,271	▲283

◆減価償却費 3億81百万円

◆設備投資

自動ロボット制御ピッキングシステム (AutoStore) 投資総額5億8千万円

[参考]2019年3月期第2四半期

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2018.3期 2Q	2019.3期 2Q	主な要因
期首残高	1,424	1,658	
期中増減額	▲165	▲313	
営業活動によるキャッシュフロー	+453	+352	税金等調整前当期純利益や減価償却費による資金の留保等によりプラス
投資活動によるキャッシュフロー	▲244	▲454	固定資産の取得等による支出
財務活動によるキャッシュフロー	▲373	▲211	有利子負債の減少による支出によりマイナス
換算差額	▲0	+0	
期末残高	1,259	1,345	

[参考]梱包事業について

■ 進駐軍搬入の特別仕様の梱包指名を受ける

米軍の精密機器をミル規格に則って梱包しなければならなかったが規格に則ってきちんと梱包していた為、高い評価を受け、検査官からの信用も得ていた。

■ 防衛庁(現防衛省)から精密機器の輸送・梱包の仕事

「防衛庁規格」=ミル規格を参考に作成された非常に厳しい規格。
しかし、当社はこれを得意としており、防衛庁の検査官からも当社は高い評価を得ていた。

→「梱包が難しいものならサンリツに」といわれるまでに、信用されていた。

「信用」と「高い梱包技術」が当社の財産

[参考]事業概要

梱包事業

- 小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐に渡り対応
- 製品形状や特質・送り先（国内外）・輸送状況を考え、製品の品質を保つ
- コスト的にも最善な梱包形態を提供

運輸事業

- 精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に低コストで配送
- 協力会社のサポートによる全国配送も可能
- 引越など輸送に関わる幅広い業務を行う

倉庫事業

- 空調を完備した快適な環境
- 24時間フルタイム管理・警備対応
- 梱包工場としての機能を有しており、流通加工、開梱並行処理拠点として機能していることに加えて、取扱製品に応じた設備を有する

国際物流

- ・ 保税蔵置場に梱包工場を併設
- ・ 梱包から保税蔵置・通関そして港湾・空港への輸送にいたるまで自社で対応
- ・ NVOCC（外航利用運送事業者）として船会社からスペースを買い取ることで、目的地までの最適な輸送方法を、一貫した運用責任の下、提供する

3PL

- ・ 物流改革の提案を行い、物流業務を包括的に引受ける
- ・ 高度な梱包技術と包装設計を駆使し、自社内での梱包、輸配送、保管、在庫管理、保税通関、エンドユーザーまで届けている

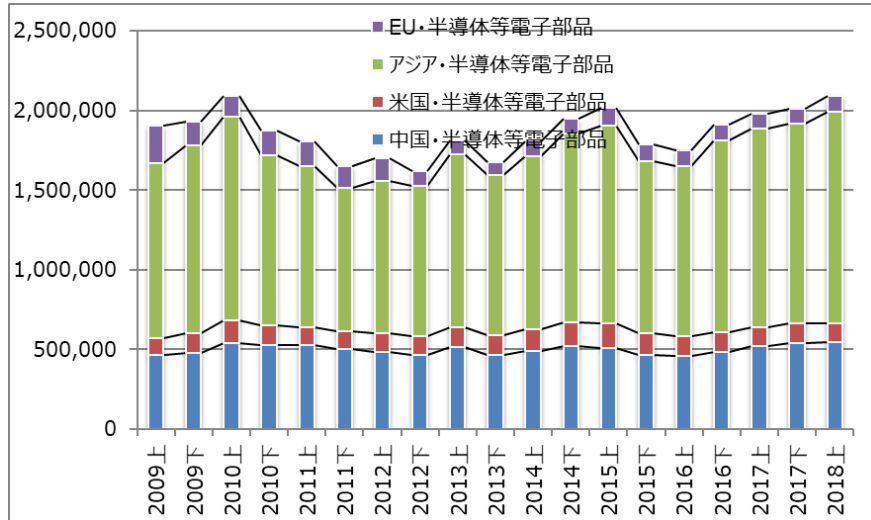
包装設計

- ・ 取扱製品が多岐に渡るため、様々な包装技術・技法及び材料を採用している
- ・ 地球環境保護問題に対応した包装技術・技法の改善、向上を図っている
- ・ 常に新包装技術の開発を行っている

[参考]2019年3月期 業績予想／外部環境

品目別輸出金額 年別推移（半導体等電子部品等）

単位：百万円

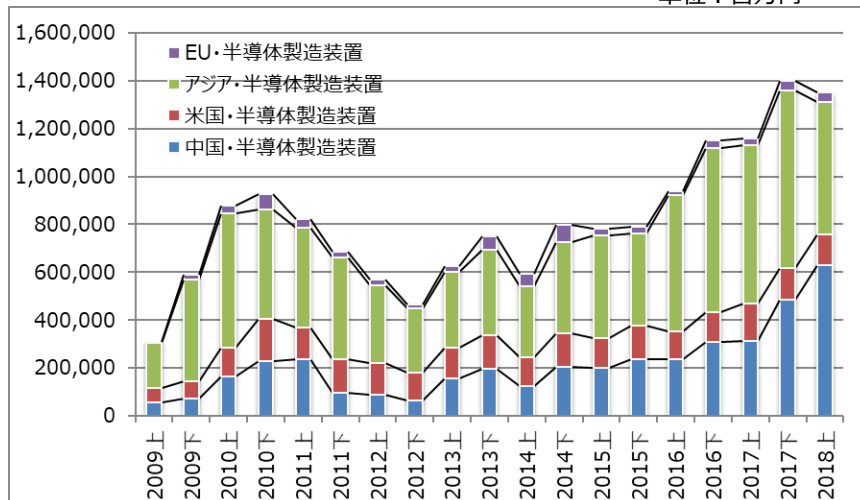


※半導体等電子部品…熱電子管、個別半導体、ICなど

- ・ここ数年需要の拡大に伴い高水準が続く
- ・当社の取扱いについても堅調に推移

品目別輸出金額 年別推移（半導体製造装置）

単位：百万円

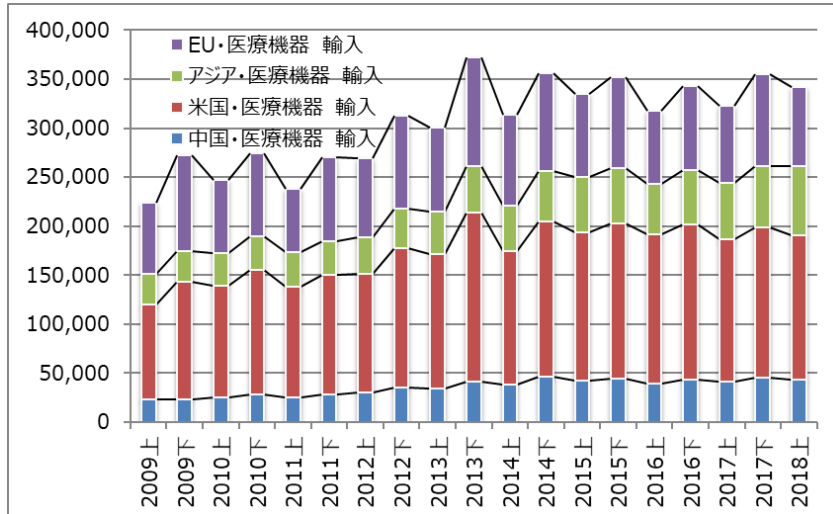


- ・2018年上期は前期よりも減少するも引き続き高水準に推移
- ・当社の取扱いについても新規及び既存案件とも引き続き堅調に推移

[参考]2019年3月期 業績予想／外部環境

品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)

単位：百万円

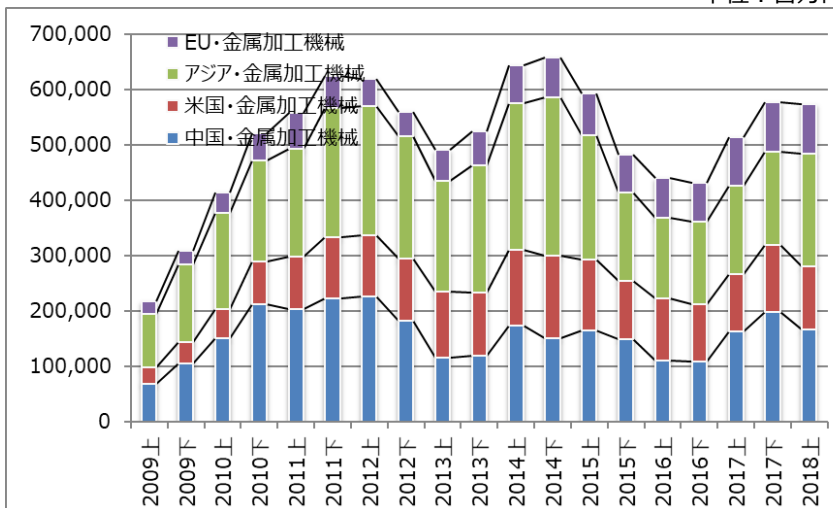


- ・医療の高度化や高齢化に伴い、国内需要は拡大
- ・しかしながら当社の取扱いはメーカーの取扱い鈍化の影響もあり弱含み

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

品目別輸出金額 年別推移 (金属加工機械)

単位：百万円



- ・世界的な市場の良さに伴い、業界全体として右肩上がり推移
- ・シクリカルな業界動向及び米中貿易摩擦等の懸念から当社取扱いは弱含み

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械